



住民活動②

子どもたちと作る コスモス街道

北海道釧路市 千歳生活学校





北国にもようやく遅い春が訪れ、今年もコスモスの種をまく季節がやってきた。

五月二〇日の土曜日、釧路市立東中学校の生徒たちは

「わたしたちは、広野に丹頂鶴が舞い、夕焼けがうなばらを染める釧路の市民です。」

わたしたちは、開拓の精神をうけつぎ、生産都市を誇りとして、豊かで明るいまちを築くために、この憲章を定めます。

きょうを充実させ、あすを発展させるために。

一、緑を育て、きれいなまちをつくりましょう」

と釧路市民憲章を斉唱したあと、コスモスの種をまく作業に取りかかった。

千歳生活学校（代表・角田幸子さん）が中学校の生徒や小学校の児童の協力を得て作っている「コスモス街道」は日進小学校前から釧路工業高校前までの沿道約二キロに渡り、釧路市の秋の風物詩になっている。

沿線の歩道に三四〇の枡があり、ナカマドなどの街路樹が植わっている。この枡を各団体が分担して街路樹の根本にコスモスの種をまく。種まきの作業は毎年五月の第三土曜日に行わ



れる。

作業日が近づく、生活学校のメンパーはその準備に忙しくなる。

種、肥料、ひもを入れた袋を半日かかって三四〇個用意し、作業の当日の朝、メンパーが手分けして枡ごとに事前に配る。それにひもを張る杭も用意する。杭の数は一二〇〇本にもなる。

子どもたちは割り当てられた枡に移動すると、枡内の石やゴミを拾い、スコップで土をおこし、ヘラで土を細かくしたあと、小さなくぼみを作り、肥料を施し、種をまき、土をかぶせる。花壇が荒らされないように周囲に杭を打ち、ビニールひもで囲んで作業は終わるが、道具の後片づけと竹帚での歩道の掃除を忘れてはならない。

「コスモス街道」づくりは昭和五十八年から取り組み、今年で十八年になる。

桜が咲き始める五月に種をまき、七月に草取りを行い、十月下旬に株を抜き取る。北国の冬の到来は早い。霜枯れする前に美観も考えて抜き取り、春に備える。

杭も一本一本抜き取り土を落とし、メンパーが手分けして保管する。杭は一年一年補充しながら備えてきた大切な資材だ。年三回の作業があるなかで、夏の草取り作業が一番大変だと



いう。

作業は沿線の町内会、老人クラブ、婦人部、日進、柏木両小学校の児童と東中学校の生徒が参加して行われる。各所で子どもたちと高齢者との共同作業も見られる。沿線にある釧路市生涯学習センターの職員も施設前の歩道を受け持つ。まさに老若男女が汗を流し、市民の労力ボランティアによってコスモスは秋に可憐な花を咲かす。

このように釧路市の風物詩になっている「コスモス街道」は行政、小・中学校、町内会などの協力によって毎年行われる。千歳生活学校はそのコーディネーター役を果たしている。春の訪れとともに角田さんたちは各団体への協力依頼で東奔西走する。釧路市民憲章推進協議会や釧路市緑化協会からも支援を受け、地元からも寄付を募り「コスモス街道」づくりの経費に充てている。

いつまで続くのか、一抹の不安にさいなまれながらも、今年も秋の花咲くコスモスを夢見て、メンバーは慣れた手つきで一枘一枘、作業をこなしていく。

■連絡先 釧路市千歳生活学校

TEL 〇一五四 四一 二八七一